

2004(平成16)年度
慶應義塾大学 点検・評価報告書

[総括]

KEIO UNIVERSITY 2004



2004(平成 16)年度 慶應義塾大学 点検・評価報告書

目 次

【第 1 分冊】

各部門報告書内の詳細目次

総 括

序 章	1
本 章	3
終 章	145
慶應義塾 外部評価委員会 記録	151
統 計	159
教職員数	159
専任教員年齢構成表	160
学生数（5 年度推移）・大学院学生推移	162
定員数	163
入学試験状況	164
修了・卒業者数／進路	165
受入留学生数（研究科・学部別）	166
受入留学生数（国・地域別）	167
派遣留学者数（研究科・学部別）	168
校舎・校地の基準面積と現有面積	169
蔵書統計	170
補助金採択状況（塾内）	171
補助金採択状況（塾外）	172
寄付金・塾債	173
平成 15 年度全塾決算書	174
塾員数・三田会数	175
付属資料	177
総合改革プラン 2002 ～ 2006	177
慶應義塾組織図	187
学事組織図	188
日吉キャンパスの教育体制	189
慶應義塾職員研修体系	190
慶應義塾点検・評価規程	191
点検・評価関連委員会名簿	193

【第 2 分冊】

各部門報告書内の詳細目次

学 部

文学部	1
経済学部	51
法学部	97
商学部	125
医学部	159

理工学部	191
総合政策学部・環境情報学部	253
看護医療学部	305

【第3分冊】

各部門報告書内の詳細目次

大学院

文学研究科	1
経済学研究科	25
法学研究科	45
社会学研究科	65
商学研究科	95
医学研究科	123
理工学研究科	193
経営管理研究科	259
政策・メディア研究科	289
法務研究科	337

【第4分冊】

各部門報告書内の詳細目次

メディアセンター	1
----------	---

研究所等

言語文化研究所	21
メディア・コミュニケーション研究所	41
斯道文庫	53
産業研究所	63
体育研究所	69
福澤研究センター	79
東アジア研究所	87
スポーツ医学研究センター	93
外国語教育研究センター	97
国際センター	109
保健管理センター	127
教職課程センター	131
情報処理教育室	147
日本語・日本文化教育センター	151
アート・センター	165
知的資産センター	191
教養研究センター	199
新川崎先端研究教育連携スクエア	225
鶴岡先端研究教育連携スクエア・先端生命科学研究所	233
英国ナウトンコート先端研究教育連携スクエア	243

学生総合センター	245
----------	-----

ハラスメント防止委員会	281
-------------	-----

体育会	283
-----	-----

各部門報告書内の詳細目次

下記の各項目は、各部門（学部・研究科・研究所等）に共通のものである。各報告書内において記述のない場合は、当該部門に該当しないか、あるいは総括に記述を譲ったものである。

I 理念・目的・教育目標

II 教育研究組織

III 教育研究の内容・方法と条件整備

III-1 教育・研究指導の内容等

- (1) 教育課程
- (2) 高・大連携への取組み
- (3) 国家試験への対応
- (4) 医学系・看護系のカリキュラムにおける臨床実習・臨地実習の位置付け・運営方法
- (5) インターンシップ
- (6) 国内外の他大学との単位互換の状況と今後の課題
- (7) 外国人留学生、帰国生、ニューヨーク学院からの進学者などに対するカリキュラム上あるいは教育指導上の配慮
- (8) 外国人留学生の受入れ・国際プログラムの実施の状況
- (9) 障害をもつ学生への教育上の配慮
- (10) 社会人の再教育・生涯教育の実施状況、社会人学生に対するカリキュラム・研究指導上の配慮

III-2 教育・研究指導方法とその改善

- (1) 教育効果をより適切に測定（評価）するための工夫改善への組織的取組み
- (2) 成績評価の厳格性・客観性を確保するための仕組み
- (3) 適切な履修指導または効果的な研究指導を行うための制度・工夫
- (4) 教育改善または教育研究指導方法の改善への組織的な取組み
- (5) 授業の適正人数規模
- (6) 情報機器を活用した教育の実施状況
- (7) e-Learning、遠隔授業の実施状況と今後の取組み
- (8) セメスター制の導入状況あるいは導入計画

III-3 国内外における教育研究交流

- (1) 国際交流推進に関する基本方針および国際交流の現状と課題
- (2) 外国人教員の受け入れ体制の整備状況

III-4 通信教育

III-5 専門職大学院のカリキュラム

- (1) カリキュラム編成上の義塾の独自性・特色
- (2) 高度専門職業人養成機関に相応しい教育内容・水準を維持するための方途
- (3) 高度専門職業人養成機関に相応しい修了認定の仕組み

Ⅲ－６ 「連携大学院」の教育課程

- (1) 学外の研究所等との連携において大学院課程の教育内容の体系性・一貫制を確保するための方途

Ⅲ－７ 学位授与・課程修了の認定

Ⅳ 研究活動と研究体制の整備

Ⅳ－１ 研究活動

- (1) 論文等研究成果の発表状況
- (2) 特筆すべき研究活動状況
- (3) 附属研究所との関係・将来展望

Ⅳ－２ 研究体制の整備（経常的な研究条件の整備）

- (1) （個人・共同）研究費・研究旅費の充実度・問題点
- (2) 教員研究個室等の整備状況と将来計画
- (3) 教員の研究時間を確保させるための方途
- (4) 特筆すべき競争的な研究環境の創出
- (5) 研究論文・研究成果の公表を支援するための措置、大学・研究機関間の研究成果を発信・受信するシステムの整備
- (6) 研究等における倫理性の確保

Ⅴ 学生の受入れ

- (1) 学生募集・入学者選抜方法
- (2) 入学広報
- (3) 学部・研究科等の理念・目的・教育目標と学生受入れ方針の関係
- (4) 塾内高校からの学部進学
- (5) 特別学生受入れの状況
- (6) 留学生入試・外国人学生受入れの状況
- (7) その他の特記事項
- (8) 退学者の状況

Ⅵ 教育研究のための人的体制

- (1) 教員組織
- (2) 研究支援職員・組織の充実度
- (3) 実験・実習等を伴う教育実施上の人的補助体制の整備状況
- (4) TA 制度・SA 制度・RA 制度
- (5) 教員の募集・任免・昇任
- (6) 任期制、有期契約教員等、教員の流動性を促進する制度および任用の状況
- (7) 教員の教育・研究活動や研究活動の活性度合いについての評価方法
- (8) 学内外の教育研究組織・機関との人的交流の状況

Ⅶ 施設・設備等

Ⅶ－１ 施設・設備等の整備

- (1) 教室等の量的・質的充実度、稼動状況および将来計画
- (2) 学生・教員に対する情報機器の利用環境・機器配備状況
- (3) 施設・設備の社会への開放に対する配慮

- (4) 記念施設・保存建物の保存・活用の状況
- (5) 大学院の専用とするべき施設・設備の整備状況と将来計画
- (6) 大学院学生用キャレル・実習室等の整備状況と将来計画
- (7) 夜間の教育研究を円滑に行うための施設・設備・サービス提供
- (8) 本校以外にも拠点（サテライト等）をもつ大学院における教育研究指導環境の整備状況

VII-2 キャンパス・アメニティ等

- (1) 学生の福利厚生のための施設・設備の充実度と今後の課題
- (2) 大学周辺の「環境」への配慮

VII-3 利用上の配慮、責任体制

- (1) 障害をもつ学生・教職員への施設・設備面での配慮
- (2) 各施設等の利用時間帯の配慮
- (3) 大規模地震等の災害への危機管理対策
- (4) 実験等における危険防止のための安全管理・衛生管理・環境被害防止の徹底を図るための制度の確立状況
- (5) 施設・設備等を維持・管理するための責任体制の確立状況
- (6) 施設・設備の衛生・安全を確保するためのシステム整備状況

VIII 図書館および図書等の資料、学術情報

- (1) 図書館資料等の質および量（コレクションマネジメント）
- (2) 図書館施設の規模、機器・備品の整備状況（ハードウェア）
- (3) 図書館サービスの状況（ソフトウェア）
- (4) 学外との相互協力、社会貢献（アウトリーチ）

IX 社会貢献

- (1) 社会人向け教育プログラム・公開講座の開設状況
- (2) 企業との連携としての寄附講座の開設状況
- (3) 研究成果の社会への還元
- (4) 特許・技術移転その他知的資産
- (5) 産学連携と倫理規定

X 学生生活への配慮

- (1) 学生生活支援の基本的な考え方
- (2) 課外活動・課外教養の指導・支援
- (3) 奨学制度
- (4) 就職（進路）指導
- (5) 学生の心身の健康保持・増進への配慮
- (6) 学生生活支援を効果的に行うための組織体制

XI 管理運営

- (1) 評議員会・理事会等
- (2) 塾長選出、評議員選出
- (3) 教授会・研究科委員会等
- (4) 研究科委員会と学部教授会との相互関係
- (5) 学部長の権限と学部・研究科等の意思決定プロセスの透明度

- (6) 大学評議会等全学的審議機関の権限の内容と運用
- (7) 教学組織と法人理事会との間の連携協力関係・機能分担・権限委譲
- (8) 管理運営に関する学外有識者の関与の状況
- (9) 危機管理体制の整備状況

XII 財 政

XII－1 教育研究と財政

XII－2 外部資金等

- (1) 文部科学省科研費、外部資金（寄附金、受託研究費、共同研究費等）の受入れ状況

XII－3 予算配分・予算執行のプロセスの透明性

XII－4 財務監査

XII－5 財政公開

XII－6 私立大学財政の財務比率

XIII 事務組織

XIII－1 事務組織と教学組織との関係

XIII－2 事務組織の役割

- (1) 学部・大学院の教学に関わる事務組織体制と企画・立案・補佐機能
- (2) 予算編成過程における事務組織の役割
- (3) 学内の意思決定・伝達システムの中での事務組織の役割とその活動
- (4) 国際交流・入試・就職・研究支援等の専門業務への事務組織の関与の状況
- (5) 大学運営を経営面から支えうるような事務局機能の確立状況

XIII－3 事務組織の機能強化のための取組み

XIV 自己点検・評価

- (1) 大学全体および各学部・研究科等における恒常的な自己点検・評価システムの確立状況
- (2) 自己点検・評価の結果を将来の改善・改革につなげるための仕組み
- (3) 学外者を含めた委員会の設置など、自己点検・評価の客観性・妥当性を確保する仕組み
- (4) 自己点検・評価の結果の学外への発信状況
- (5) 大学に対する社会的評価等
- (6) 文部科学省からの指摘事項および大学基準協会からの勧告などに対する対応

XV 卒業生との関わり

- (1) 卒業生の状況把握（就職先企業、現住所、同窓会活動など）
- (2) 社中の一員としての協力・貢献（寄付、在校生支援、評議員など）
- (3) 義塾から卒業生に対するサービス（社会人教育、招待など）
- (4) その他（学会等）

以 上

序 章

はじめに

慶應義塾点検・評価委員会

委員長 工藤 教和

慶應義塾がその目標とする「全社会の先導者」となるためには、自らの活動の実態を社会に対して積極的に開示するとともに、自己点検・評価活動から課題を抽出し、それらを組織・活動の改善や水準の向上に結びつける不断の主体的な努力が必要である。

これまで、慶應義塾の多くの部署で、それぞれの方法によってこの取組みは進められてきていた。しかし率直に言って、『慶應義塾年鑑』の編集方針に自己点検の視点が近年導入されたものの、全学的な組織をあげての点検・評価活動については未着手の状態であった。全学的な点検・評価活動への機運が熟してきた2003年5月に慶應義塾点検・評価規程が制定され、慶應義塾全組織を対象とする点検・評価委員会が組織された。

この委員会の活動の手始めとして、まず大学についての点検・評価を試みた。その成果が本報告書である。点検・評価委員会の下に大学の各学部・研究科あるいは教育・研究支援組織などから選出された専門委員会が組織され、各部署の点検・評価組織と協働して、昨夏にかけて点検・評価活動が実施された。全学的な点検項目については、それまでの各部署での点検・評価活動の項目、方法が多岐を極めたので、多くを（財）大学基準協会の点検・評価項目に依拠しつつ、一部独自の項目を設定して行った。

各部署から提出された点検・評価報告を事務局で整理し、点検・評価委員長以下本部スタッフがそれらを総括する方式を採用した。これまでの経緯を反映して、項目によって各部署の力点が異なり、内容的にも濃淡があることは否定できない。また、必ずしもすべてが点検・評価の視点のみから記述されているわけでもない。しかし、慶應義塾大学全体としての現状を知り、改善への課題を抽出する最初の試みであることの意義を考え、全体をまとめ上げる作業をまずは優先させることにした。したがって、本報告書は、外部評価委員はじめ各方面の意見を入れて、今後もさらに精緻化されて行くべき暫定的な性格のものである。また、基礎データなどについて、書式の統一と内容の充実など、今後の作業に委ねられているものもある。この点で、皆様からの忌憚のないご意見を歓迎する。

それ以上に、各方面からの指摘を待つまでもなく、これまでの段階でも課題として取上げられた問題について、各部署が改善に向けて主体的に取組み始めることを期待したい。

本報告書をまとめるにあたってご尽力いただいた点検・評価専門委員会委員ならびに事務局員各位に、末尾ではあるが、深く感謝の意を表したい。